レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

2026年 7月 1日

株式会社　竹下生コン

広島県山県郡北広島町都志見567番地

配合計画者名　寄政　敏雄

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	4月1日～6月20日，9月11日～11月20日，標準配合。左記以外の期間は備考欄に記述。(標準配合)
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	27	12	20	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載	
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB －	
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－	kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	最高・最低	－　℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	55	%
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－	kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－	kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－	cm
	空気量	4.5 %			

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社	密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq %	－
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－
混和材②		－		－		－

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分 区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	密度 g/cm³ 表乾	微粒分量の範囲%
細骨材	①	加工砂	広島県山県郡北広島町都志見	A	化学法	5mm以下	2.70	－	2.54	－
	②	砕砂	安芸高田市八千代町向山	A	モルタルバー法	5mm以下	2.90	－	2.63	7.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	②	砕石	安芸高田市八千代町向山	A	モルタルバー法	13～5mm	6.30	－	2.69	1.0±1.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	④	砕石	安芸高田市八千代町向山	A	モルタルバー法	20～13mm	7.05	－	2.70	1.0±1.0

混和剤①	製品名	ｼｰｶﾋﾞｽｺﾌﾛｰ700Rsure	種類	－	Na_2Oeq % －
混和剤②		－		－	－
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	①0.000%	水の種類	上水道水以外の水（地下水）	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－ %
回収骨材の使用方法	細骨材 －	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－

配合表 kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
336	－	－	173	509	340	－	－	323	－	600	2.69	－	－

水セメント比	51.5 %	水結合材比	－ %	細骨材率	49.1 %

備考

骨材混合比（質量混合）	細骨材①：②	60：40
	粗骨材④：②	65：35

骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。
修正標準配合として次に示す適用期間の間、混和剤①の単位量のみ変更いたします。
また、夏期修正標準配合期間内についてはAE減水剤（遅延形）を使用する場合がある。
夏期7月1日～9月10日　C×1.05%、冬期11月21日～3月31日　C×0.55%

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB －
指定事項（任意）	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	最高・最低 － ℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm
	空気量	4.5 %		

(1)変動係数(v)　　当工場の実績により　v = 10　%

(2)配合強度(m)

$$m_1 = \frac{1 \cdot S_L}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 33.8 \ N/mm^2$$

よって　m = 33.8　N/mm²

(3)水セメント比(W/C)　　m = -11.8 + 23.5 × C/W

W/C = 23.5 ÷ (33.8 + 11.8) × 100 = 51.5 % ≦【55%(上限値)】

∴W/C = 51.5　%

(4)単位水量(W)　　当工場の実績により　W = 173　kg/m³

(5)単位セメント量(C)　　C = W ÷ (W/C) × 100 = 173 ÷ 51.5 × 100 = 336　kg/m³

Cv= C ÷ 密度 = 336 ÷ 3.04 = 111　ℓ/m³

(6)空気量(A)　　A = 4.5 % × 1000 = 45　ℓ/m³

(7)細骨材率(s/a)　　当工場の実績により　s/a = 49.1　%

(8)単位細骨材量(S)　　Sv = (1000 − (W+Cv+A)) × s/a = 671 × 49.1 % = 329　ℓ/m³

S = Sv × 表乾密度 = 329 × 2.58 = 849　kg/m³

S1 = S × 60.0 % = 509　kg/m³

S2 = S × 40.0 % = 340　kg/m³

(9)単位粗骨材量(G)　　Gv = 1000 − (W+Cv+Sv+A) = 1000 − 658 = 342　ℓ/m³

G = Gv × 表乾密度 = 342 × 2.70 = 923　kg/m³

G1 = G × 35.0 % = 323　kg/m³

G2 = G × 65.0 % = 600　kg/m³

(10)単位混和剤量(Ad)　Ad = C × 添加率 × 密度 = 336 × 0.80 % × 1.00 = 2.69　kg/m³

配合表　kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
336	－	－	173	509	340	－	－	323	－	600	2.69	－	－

水セメント比	51.5 %	細骨材率	49.1 %	骨材混合比(質量混合)	細骨材①：②　60：40 粗骨材④：②　65：35

備考

レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

2026年 7月 1日

株式会社　竹下生コン

広島県山県郡北広島町都志見567番地

配合計画者名　寄政　敏雄

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	7月1日～9月10日 夏期修正標準配合
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	27	12	20	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB －
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	最高・最低 －℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm
	空気量	4.5 %		

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社	密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq %	－	
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq % －
混和材②		－		－		－	

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分 区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	密度 g/cm³ 表乾	微粒分量の範囲%
細骨材	①	加工砂	広島県山県郡北広島町都志見	A	化学法	5mm以下	2.70	－	2.54	－
	②	砕砂	安芸高田市八千代町向山	A	モルタルバー法	5mm以下	2.90	－	2.63	7.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	②	砕石	安芸高田市八千代町向山	A	モルタルバー法	13～5mm	6.30	－	2.69	1.0±1.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	④	砕石	安芸高田市八千代町向山	A	モルタルバー法	20～13mm	7.05	－	2.70	1.0±1.0

混和剤①	製品名	ｼｰｶﾋﾞｽｺﾌﾛｰ705Rsure	種類	AE減水剤(遅延形Ⅰ種)	Na_2Oeq % －
混和剤②		－		－	－
混和剤③		－		－	－

細骨材の塩化物量	①0.000%	水の種類	上水道水以外の水（地下水）	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－ %		
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－	

配合表 kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
336	－	－	173	509	340	－	－	323	－	600	3.53	－	－

水セメント比	51.5 %	水結合材比	－ %	細骨材率	49.1 %

備考

骨材混合比（質量混合）	細骨材①：②	60：40
	粗骨材④：②	65：35

骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。
修正標準配合として次に示す適用期間の間、混和剤①の単位量のみ変更いたします。
また、夏期修正標準配合期間内についてはAE減水剤（遅延形）を使用する場合がある。
夏期7月1日～9月10日　C×1.05%、冬期11月21日～3月31日　C×0.55%

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載	
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB －	
指定事項（任意）	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量		－ kg/m³
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	最高・最低	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限		55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限		－ kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限		－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量		－ cm
	空気量	4.5 %			

(1)変動係数(v)　　当工場の実績により　v = 10　%

(2)配合強度(m)

$$m_1 = \frac{1 \cdot S_L}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 33.8 \ N/mm^2$$

よって　m = 33.8　N/mm²

(3)水セメント比(W/C)　　m = -11.8 + 23.5 × C/W

W/C = 23.5 ÷ (33.8 + 11.8) × 100 = 51.5 % ≦【55%(上限値)】

∴W/C = 51.5 %

(4)単位水量(W)　　当工場の実績により　W = 173　kg/m³

(5)単位セメント量(C)　　C = W ÷ (W/C) × 100 = 173 ÷ 51.5 × 100 = 336　kg/m³

Cv= C ÷ 密度 = 336 ÷ 3.04 = 111　ℓ/m³

(6)空気量(A)　　A = 4.5 % × 1000 = 45　ℓ/m³

(7)細骨材率(s/a)　　当工場の実績により　s/a = 49.1　%

(8)単位細骨材量(S)　　Sv = (1000 − (W+Cv+A)) × s/a = 671 × 49.1 % = 329　ℓ/m³

S = Sv × 表乾密度 = 329 × 2.58 = 849　kg/m³

S1 = S × 60.0 % = 509　kg/m³

S2 = S × 40.0 % = 340　kg/m³

(9)単位粗骨材量(G)　　Gv = 1000 − (W+Cv+Sv+A) = 1000 − 658 = 342　ℓ/m³

G = Gv × 表乾密度 = 342 × 2.70 = 923　kg/m³

G1 = G × 35.0 % = 323　kg/m³

G2 = G × 65.0 % = 600　kg/m³

(10)単位混和剤量(Ad)　Ad = C × 添加率 × 密度 = 336 × 1.05 % × 1.00 = 3.53　kg/m³

配合表　kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
336	－	－	173	509	340	－	－	323	－	600	3.53	－	－

水セメント比	51.5 %	細骨材率	49.1 %	骨材混合比(質量混合)	細骨材①：②　60：40 粗骨材④：②　65：35

備考